



実用新案公報

庁内整理番号 6976-21

④公告 昭和51年(1976)3月9日

(全2頁)

⑦釣竿のリール取付ハンドルにおける移動座摺動装置

⑧実願 昭46-112606  
⑨出願 昭46(1971)11月30日  
公 開 昭48-64386  
⑩昭48(1973)8月15日  
⑪考案者 山本茂  
東久留米市前沢3の14の16  
⑫出願人 ダイウ精工株式会社  
同所  
⑬代理人 弁理士 横田実久

⑭実用新案登録請求の範囲

リール取付部の表面に設けたリール取付溝の先端部に巾狭の摺動溝を設け、釣竿装着筒部には下部に溝を有する摺動孔を穿設して該摺動孔に一端下面に前記溝に嵌合する突起を、上面に螺旋溝を夫々設けた移動座を摺動自在に嵌着すると共に移動座に設けたリール取付脚に銜接する傾斜圧着部の下部に前記摺動溝に嵌合する受片を形成し、更に釣竿装着筒部に回転自在に支承した螺管を前記移動座の螺旋溝を螺合せしめたことを特徴とする釣竿のリール取付ハンドルにおける移動座摺動装置。

考案の詳細な説明

釣竿のリール取付ハンドルに魚釣り用リールを装着するには、リール取付ハンドルのリール取付溝の基部に設けた固定座にリール取付脚の一方を挿着した後リール取付ハンドルに支承されている螺管を回動してこれと螺合摺動する移動座を前進させてその傾斜圧着部でリール取付脚の他方を圧着してリール取付脚を固定座及び移動座間に挟着して固定するものであるが、リール取付脚を圧着する部分は単なる傾斜面であるため移動座の圧着部に上方に応力が生じこの上方に作用する力は移動座と螺管との螺合部に作用して両者の噛み合いを不良にし移動座の圧着作用にガタを生ぜしめる欠

陥があると共にリールを装着していない場合に螺管を回転しすぎると移動座が螺管から飛出し脱落し紛失したり水中に落ちたりする欠陥がある。

また移動座の下部をリール取付部に回転自在に支承した螺杆に直接螺合することも知られているが螺杆の操作摘手がリール装着筒の下部に突出しているため釣糸や釘針等が纏絡し易い欠点があると同時に螺杆の径及び摘手も小さくなりリールの着脱操作が円滑確実にできない欠陥がある。

本考案はこのような欠陥を改善するようにしたもので、リール取付部の表面に設けたリール取付溝の先端部に巾狭の摺動溝を設け、釣竿装着筒部には下部に溝を有する摺動孔を穿設して該摺動孔に一端下面に前記溝に嵌合する突起を、上面に螺旋溝を夫々設けた移動座を摺動自在に嵌着すると共に移動座に設けたリール取付脚に銜接する傾斜圧着部の下部に前記摺動溝に嵌合する受片を形成し、更に釣竿装着筒部に回転自在に支承した螺管を前記移動座の螺旋溝に螺合せしめたことを要旨とするものである。

本考案の実施例を図面について説明すると、1は釣竿の末端に装着するリール取付ハンドルであつて、先端の釣竿装着筒部2と下面に指掛3'を有するリール取付部3と基部の把柄部4とより構成され、特にリール取付部3は断面略半円型に形成されその表面にはリール取付溝5が設けられ、該リール取付溝5の基端部即ち把柄部側には図示されてはいないがリール脚の固定座が形成されており、またリール取付溝の先端部には更にリール取付溝より巾の狭い摺動溝6が穿設されている。

しかし釣竿装着筒部2のリール取付部側には内側面に螺子溝7'を有する螺管7が回転自在に支承されると共に軸方向に下部に溝8'を有する摺動孔8が形成され該摺動孔8には上面に前記螺管7の螺子7'に噛合する螺旋溝9を、また下面に前記溝8'に嵌合する突起10を夫々有する移動座11が嵌合し、該移動座11の先端部にはリール取付脚に銜接する下向きの傾斜圧着部12と

3

該傾斜圧着部12の下部に位置して前記摺動溝6に嵌合する受片13とが一体に形成されている。

本考案は上記のように構成されているから魚釣り用リールを装着するには先ずそのリール取付脚の一方を固定座に挿着してリール取付溝5上に載置して螺管7を回転して移動座11を右方に摺動せしめ、傾斜圧着部12をリール取付脚の他方に衝接圧着すると共に摺動溝6内を摺動する受片でリール取付脚の下面を支承してリール取付脚を固定座と移動座11間で挟圧固定するものである。

本考案はリール取付脚をリール取付部のリール取付溝に着脱するに当り釣竿装着筒部に回転自在に支承した螺管の回動操作で移動座を摺動してリール取付脚を固定座との間に挟圧固定するようにしたのでリール取付ハンドルに指掛以外に釣糸や釣針等の纏結し易い突出部を形成することを防止して魚釣り操作を容易ならしめると共にリールの着脱操作も太い釣竿装着筒に回転自在に支承した螺管の回動作用で行うので操作が円滑確実にしかも容易にできる。

次に本考案はリール取付溝の先端部分に更に摺動溝を形成し、該摺動溝に移動座の傾斜圧着部の下部に設けた受片を嵌装してリール取付脚を傾斜圧着部と受片間で嵌合支承しながら圧着するようにしたので移動座のリール取付脚圧着部には取付

4

溝方向の力のみ作用し、従来のように傾斜圧着部に上向きの力が生じこの力のため螺管と移動座との嵌合部に無理な力が作用して両者の噛合いが不良になつて移動座の圧着作用にガタを生ずるような欠陥を防止し、円滑確実にリール取付脚を圧着固定することができる。

また本考案においては移動座はその受片がリール取付溝の摺動溝に嵌合し移動座の摺動範囲を規制しているため螺管を回動し過ぎて移動座が飛出し脱落して紛失するような恐れもなく、また極めて簡易な構成により移動座のリール取付脚の圧着固定を円滑に行うことができる等の優れた特徴と実用性を有するものである。

#### 図面の簡単な説明

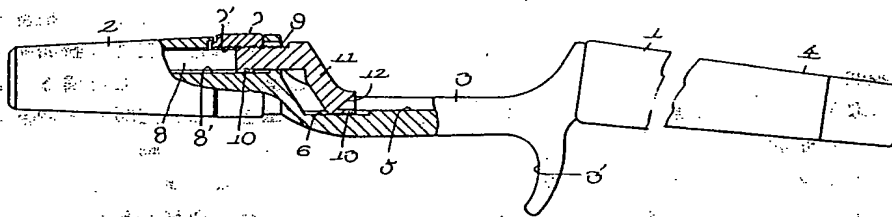
第1図は本考案の一部切欠正面図、第2図及び第3図は夫々本考案要部の断面図である。

1……リール取付ハンドル、2……釣竿装着筒部、3……リール取付部、5……リール取付溝、6……摺動溝、7……螺管、8……摺動孔、8'……溝、9……螺旋溝、10……突起、11……移動座、12……傾斜圧着部、13……受片。

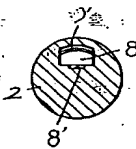
#### 引用文献

実 公 昭40-31096

第1図



第2図



第3図

